社会医療法人大雄会
地域医療連携広報誌

つながる医療

人工関節センター長
中根（なかね） 邦雄（くにお） 医師

1967年　名古屋市立大学卒業
主に膝、股関節の人工関節を専門領域とします。

●**所属学会・資格**／日本整形外科学会専門医、医学博士

2001年愛知県より「愛知県医療功労賞」を受賞、
また2008年秋の叙勲において「瑞宝双光章」を受章。

人工関節センター

痛みをとるだけでなく、後十字靭帯温存にこだわり “正座膝をめざす” 日本人のための人工膝関節置換術

大雄会では2005年、愛知県で最初の人工関節センターを開設して以来、最先端の人工膝関節置換術をめざして実績を積み重ね、2014年度は132膝の手術を施行しています。
日本人の生活に合わせて正座ができるまでの回復をめざした手術・治療について、センター長の中根医師に伺いました

医師紹介

人工関節センターでは、新たに診療部長が着任し、**膝半月板切除・縫合術、靭帯再建術などの関節鏡視下手術も可能となる**など、ますます充実した治療を行えるようになりました。

人工関節センター診療部長
寺田 聡史 医師

（1999年名古屋市立大学卒業）
米国ピッツバーグ大学整形外科に留学、
スポーツ整形外科を2年間研修。

整形外科学会専門医/日本リウマチ学会専門医/日本人工関節学会/日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会（JOSKAS）/医学博士

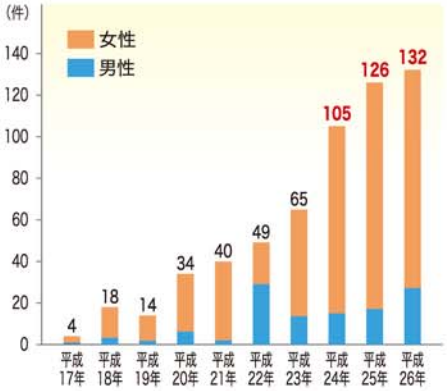
人工関節センター

正座ができる手術をめざす

加齢による変形性膝関節症や慢性関節リウマチなどによって関節が変形し、保存的治療が困難になると、人工膝関節置換術による治療が行われます。人工膝関節置換術（TKA）には、前後の靭帯を2本とも切る手術（PS型）と、後十字靭帯を残す手術（CR型）の2種類の手術があります。現在行われている人工膝関節置換術の約7割が靭帯を2本とも切ってしまうPS型ですが、当センターでは、後十字靭帯を温存するCR型を行っています。靭帯を残す理由は、術後の歩行の安定性が抜群によくなること。そして屈曲可動域が広がり、PS型より関節が曲がるようになるためです。

また手術は、独自の手術手技（表面置換術）を考案し、専用の手術器具を用いて、靭帯を触らず破壊された関節表面のみを切除し、日本人用に作られたインプラントを同じ場所にジャストサイズで挿入することにより、正座膝が約９％可能となりました。

人工膝関節の年度別手術件数



当院の術後の成績では、屈曲角度の平均値は、胡坐や自転車に乗ることが可能な130度です。また全体の38%の患者さまが140度の角度まで曲がっています。こうした実績から、人工膝関節置換術は年々増加しており、平成25年度は126件、平成26年度は132件、と愛知県下でも有数の手術数となっています。

高度医療とリスク軽減をテーマに

CR型の置換術は、技術的に難度が高い手術になるため、人工関節に特化した医療チームを編成し、医療・技術情報の共有化に努めるなど、高度先進的治療を実現するための多様な取り組みを行っています。手術器具のこだわりもそのひとつで、当センターの顧問でもある愛知医科大学名誉教授・丹羽滋郎先生が独自開発された手術器具「丹羽式十手ジグ」を、私たちの手術器具としてモディファイし、精密さが要求される手術に活用しています。手術時間は、1時間30分程です。

患者さまの多くは高齢者で、余病を抱えていることも少なくありません。特に人工関節では、深部静脈血栓症と、感染症による合併症が問題となっていますので、疑いのある場合には投薬や運動療法を通じて最大の注意を払って予防しています。さらに手術に際して「自己血貯血、クリーンルームでの手術」をルール化するなど、感染症を防ぐさまざまな対策を講じています。

早期の手術で、理想的な機能回復を

入院は約1ヵ月間。手術前日に入院して、手術後4日目から歩行訓練を開始します。その後、膝を曲げるリハビリテーションを行います。人工膝関節では特に曲げる訓練が重要です。当院では4年前に特許を取得した器具（NG-ROM Machine）を使用しています。この器具は自分で痛みのコントロールをしながら膝を曲げることが出来るため、患者さまに喜ばれています。退院時には痛みもとれ、杖もなく歩いて退院できます。退院後リハビリを継続することはありませんが、2ヵ月に1回程度の間隔でレントゲンチェックを行い、関節のゆるみ、曲がり具合、感染の有無などを観察していきます。退院後のアンケートでは、7割を超える患者さまが「人工関節ということを忘れている」という回答があり、かつての健康な状態で生活されています。

NG-ROM マシーン（特許取得）
術後ROM(Range Of Motion)獲得のための器具。かかとを台座に乗せて下肢を無重力状態にし、膝の屈・伸筋群の筋活動をゼロにして訓練ができます。

しかし、手術をすれば、誰でも思うように関節を曲げられるのかと言えばそうではありません。同じ手術をしても、元々よく曲がっていた人は術後も曲がりやすく、曲がらなかった人は術後も曲がりにくい。つまり、長年、痛みをこらえて我慢していると、筋肉や靭帯が堅くなって、手術をしても曲がりにくくなってしまいます。後々の生活をより快適に健康的に過ごすためにも、早期にタイミングよく手術することが大切でしょう。

当センターの活動を、患者さまとの関係強化に

当センターでは、人工関節に関わる最新情報を広く提供していくことも重要な役割だと考えています。その一環として開催しているのが、地域の医療関係者の方々を対象とした「人工関節セミナー」です。院外より人工膝関節置換術の著名な先生をお迎えして実施する手術のライブ中継は、最先端の手術が理解しやすいと大変好評をいただいています。今後ともこうしたセミナー情報なども積極的に地域に発信し、地域の医療機関のみなさまとのコミュニケーションを通じて、患者さまへの理解促進へとつなげたいと考えています。

詳しくは、地域医療連携室までお電話ください。

tel.0586-26-2366（直通）fax.0586-24-9999

tel.0586-72-1211（代表）　●受付時間:月～金8:30～19:00　土8:30～12:30　※祝日、年末年始、4月3日除く

社会医療法人 大雄会
http://www.daiyukai.or.jp/

2015.6